

「一家総出で、けんたろう先生や皆様を全力で応援し、サポートします！」

先進的ケア・ネットワーク開発研究分野

中村 優

けんたろう先生へ

先日は貴重なご講演ありがとうございました。

先生のお話を伺うまで、LGBTについてなんとなく知っていて、そのことで苦しんでいる方もいらっしゃるというような、浅はかな知識しかありませんでした。

お話を伺って、素直な感想は、

「愛しているから、優しくしたい。愛しているからずっと一緒にいたい。愛しているからこの人と幸せになりたい。」

という思う気持ちは、みんな平等でいいじゃないか。と思いました。

人を愛する気持ちは、誰だって持っているものです。私は主人と小学生の子供二人がおりますが、私が主人と子供達を愛する気持ちと、けんたろう先生がパートナーさんを愛する気持ちは同じだと感じました。

主人や子供たちが悩んでいたたり、苦しんでいたら命をかけて、自分が犠牲になってでも守りたいと思います。

パートナーさんがお病気で苦しまれ、ご自分も検査を受けられた際に、同じ病気だったらいいのにと話されていました。私も同じような経験があります。

下の子供が未熟児で生まれ、出生時、長期入院していました。

退院後も1歳の誕生日の前に重症肺炎で入院しました。高熱で苦しむわが子を目の当たりにし、何でこの子ばかりが苦しい思いをしなくてはならないのかと、病室でわが子を抱きしめて何度も泣きました。

けんたろう先生がお母様にカミングアウトをされた時にけんたろう先生のお話を優しく聞いて下さった事、パートナーさんがご入院されていた時に、親子で手をつないで眠ったとのお話を伺い、けんたろう先生の優しいお人柄は、お母様がどんな時も、けんたろう先生に優しく寄り添っていたからなんだろうなと感じました。

最愛のパートナーさんの最期のお話、私も涙が止まりませんでした。

また、思春期の子供達がマイノリティーであることを苦しみ、自殺や自傷行為をしてしまうとうこと、思春期まっさかりの子供を抱える母親にとっては、胸が苦しくなり、同時に何かできないかと考えました。

けんたろう先生に伺ったお話と講義の資料を片手に、主人と子供たちとLGBTについてディスカッションをしました。

悩んで苦しんでいる方がいて、あなたたちと変わらない年齢の子供達が悩みに悩んで自ら命を絶ってしまう子たちがいるという事実を子供たちに伝えました。

「もしかしたら、お友達の中にそのことで悩んでいる子がいるかもしれない、そんな時はママが相談にのるし、みんなで、まずはこの町からそういった偏見をなくせるように頑張りようよ。」と伝えました。

まだまだ、日本では同性婚が認められていません。

これからも、色々な壁にぶつかってしまうこともあるかもしれません。

私も、主人も、福祉の道で生きるソーシャルワーカーです。そして我が子達はそんな私たちに育てられた子供たちです。

私たち、一家総出でけんたろう先生やお仲間の皆様のことを全力で応援し、サポートします。

本当にありがとうございました。